

## 「思い込みの罫」

# 道徳教育福祉教育 # バリアフリー # 多様性

|         |  |
|---------|--|
| 学校名     | 千葉県立白井高等学校   |
| 実施教科    | 「道徳」を学ぶ時間〔千葉県独自〕   |
| 授業担当者   | 主担当：麻生悠太先生   |
| 授業時間    | 50分×1回   |
| 実施対象    | 高校1年生(1学年6クラス全てで同時に実施)   |
| 授業のねらい  | 多様性について理解を深め、日常生活に生かす。<br>共生社会の形成を目指し、他者を理解しようとする気持ちを育て、日常生活に生かす。  |
| 使用ユニット  | 1-5「パラリンピアンから日常生活からバリアフリーを考える」<br>東京2020パラリンピックダイジェスト(映像資料)  |
| 活用方法    | 生徒用ワークシートを印刷して配布、各自スマホで見る、などクラスごとにそれぞれ異なる手法で。  |
| 生徒のコメント | <p>「先入観と思いやりの違いについて気づくことができたのでどんな人とかかわるときも先入観を持たずにコミュニケーションをしていこうと思った。」</p> <p>「いろいろな人が暮らしやすい社会を作れるようにすることが大切だと感じた。生活が不便だと毎日大変だったりいやなことも多かたりすると思うので、私にできることなどをして生活しやすい社会を作り、みんなが楽しい生活を送れるように自分ができることをやっていくことが必要だと感じました。」</p> <p>「バリアフリーは設備だけではなく、バリアフリーについて考える精神や人に対する態度でもあることの理解が深まった。」</p> <p>「障がいのある方には、こうしなきゃならないと自分でルールを決めていたが、その方の意思を尊重することが大切だと思った。」</p> <p>「先入観がバリアになっていることに気づいた。」</p> <p>「バリアをなくすためには、コミュニケーションが大切だと思った。」</p> |
| 先生コメント  | <p>今まで障がいのある方にどう接すればよいかわからなかった生徒も、先入観(思い込み)で行動するのではなく、一人一人の違いに目を向けることの大切さにも気付いたようで、今後の日常生活に活用してもらいたい。</p> <p>授業の中で、話し合い活動を意図的に多く設定し、一人一人の生徒が互いにコミュニケーションを取り、課題に対して前向きに取り組めるようにした。生徒のこのような態度(姿勢)が、これからの多様性理解に対する姿勢につながることを期待する。</p> <p>指導した先生方からも、今までパラリンピックや「I'mPOSSIBLE」を活用した道徳の授業の経験がなく、今後、「生徒の心に響く道徳の授業」を計画する上で、とても良い経験になったという感想が寄せられた。</p>   |
| その他     | <p>3か月の中で6日間を使って以下の「道徳教育・福祉教育」に取り組んだ。</p> <p>パラスポーツや福祉体験だけではなく、そこにつなげる事前学習として I'mPOSSIBLE を活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「多様性について」(授業)</li> <li>・「I'mPOSSIBLE」活用(授業)</li> <li>・認知症サポーター養成講座</li> </ul>   |

- ・車いすラグビー動画、東京2020パラリンピックダイジェスト動画視聴
- ・福祉体験学習(車いす、アイマスク、手話)
- ・「校内のバリアフリー」(ワークショップ)
- ・車いすラグビー選手による出前授業(タックル体験等)

